



学校だより

平成30年3月23日

横浜市立高田中学校

3月号増刊(第29-13号) TEL: 591-4183 校長 福田 之男

第30回卒業証書授与式

3月9日(金)第30回卒業証書授与式が行われました。前日から全国的に荒れ模様の天気で、当日は職員が出勤し体育館を点検したところ、天井から水滴がしたたり、椅子や床がぬれている状況でした。早速会場を再整備し式に備えました。式が始まる頃には、雨の降り方も弱くなりほっとしました。

式には高田町連合町内会長様をはじめ地域の皆様、高田小、高田東小から校長先生、光明幼稚園の先生、PTA役員の皆様など29名のご来賓にご列席賜り、保護者の皆様、在校生全員で卒業生の門出を祝いました。今年度も、卒業生はもちろんですが、在校生もとても落ち着いていて厳粛な雰囲気合った立派な態度でした。式は証書授与から滞りなく進みました。卒業生の合唱は迫力があり美しい合唱でした。合唱コンクールでの合唱も大変素晴らしいものでしたが、高中生としての最後の合唱も、今まで以上に気持ちが込められ感動的な歌声でした。退場の場面では、卒業生から担任の先生にサプライズの感謝の呼びかけがあり、厳粛な中にも温かいものが感じられるすばらしい卒業式となりました。

校長式辞では、卒業生との3年間で振り返り、入学式の式辞で、中学校生活を始めるにあって贈った「自立」と「自律」について話をし、贈る言葉としました。

《校長式辞》 抜粋

卒業生の皆さん、3年前の入学式の式辞で、皆さんが中学校生活を始めるにあたって、二つの言葉を贈りました。覚えていますか。



一つは「自立」です。自分が立つと書く「自立」です。「自立」とは一人ひとりが自分で自分の道を切り開く力を持つことだと説明しました。

二つ目も「自律」です。一つ目と読み方は一緒ですが自分を律すると書き、自分自身をコントロールする力であると話しました。そして、うまく周囲と協調して自分をコントロールできるようになることをお願いしました。この二つの言葉を中学校生活の中で大切にしていって、充実した学校生活をおくってくれるようにと話しました。皆さんは、この三年間で、この二つの「ジリツ」を達成するように努力してきました。皆さんとともに三年間を振り返ってみると、確実に「ジリツ」を達成している姿を見ることができました。

～中略～

機会あるごとに皆さんには、3年生は高田中の「心、良心」で、3年生の一人ひとりの心のもち方で、行動が変わり、学校が変わると言ってきました。今まで述べてきたような皆さんの素晴らしい行動が、高田中の「心、良心」として活躍し、学校をより良い学びの場にしてきたことを感じました。皆さんの姿をみていると、この学校の職員として皆さんとともに時を過ごしたことを大変幸運に思えました。

これから卒業生の皆さんは、自分の選択したそれぞれの道を歩んでいきます。これからの皆さんの人生では、この二つの「ジリツ」が、今まで以上に大切になってきます。この中学校で得られた多くの経験から確立してきた「ジリツ」の上に、これから新しく学んでいくことを積み重ね、素晴らしい自己を形成し、新しい世界に羽ばたいてほしいと思います。そして、自分自身の生き方を信じられるような人生を創り上げてください。

《卒業生答辞》 抜粋 3年1組 岡田 莉奈さん

思い返すと、どんな時も周りには仲間がいました。ともに笑い合い、時に泣き合い、けんかすることもありました。それら一つ一つはどんなに願っても戻ってこないかけがえのない思い出です。私は三年間を共に過ごした緑学年のみんなとこの高田中学校が大好きです。みんなと過ごした日々は一生忘れません。本当にありがとう。

在校生の皆さん、今度はあなたが高田中学校を引っ張っていく番です。時には壁にぶつかることもあるでしょう。そんな時は「一人じゃない」ということを思い出してみてください。きっと皆さんなら共に助け合うことでよりよい高田中学校を創っていただけるはずですよ。

～中略～

最後に今まで私たちを優しく、時に厳しくここまで育ててくださった。保護者の皆さん、わがままを言って何度も困らせてしまったと思いますが、いつも支えてくださり、本当にありがとうございました。

私たちはこれから自分の選んだ道を歩んでいきます。その道は決して楽なものではないでしょう。壁にぶつかることもあるかもしれませんが、そんな時はみんなと過ごした日々を糧に乗り越えていきます。

三十期生のみんなと過ごした日々は、私にとってかけがえのない宝物です。
今日までたくさんの思い出をありがとう。

《在校生送辞》 抜粋 2年2組 勝田 奈々美さん

先輩方との思い出は語るときりがなくたくさんあります。こうして振り返ってみますと、先輩方は常に私たちの目標であり憧れでした。先輩方から見た私たちはどのような存在だったのでしょうか。世話の焼ける後輩だったかもしれません。でも私たちは先輩方が大好きでした。これから先、辛いことや大変なことがあった時には、先輩方の姿を、先輩方と過ごした日々を思い出して、一層努力します。

乳幼児ふれあい体験

3月2日（金）の1校時から3校時に、本校体育館、図書室で3年生を対象に「乳幼児ふれあい体験」を行いました。この体験は、「①妊婦疑似体験、乳幼児とのふれあい体験をすることで命の尊さ、大切さを実感する。②妊娠・出産・育児等の話から、子育ての大変さ、親の役割や責任、愛情をもって子を育てることの大切さを感じる。③自他の生命を尊重する態度を養う。④地域の活動を知り、子育てや子育てする人に関心を持ち、協力できることを知る。」という4点をねらいとして実施されました。

当日は、主任児童委員さん、地域の子育てサークルの参加メンバーの皆様、PTAの協力のもとに、生徒は3グループに分かれ、順番に①妊婦ジャケットを着用した妊婦疑似体験、②実際に乳幼児と遊んだりするふれあい体験、③子育て中のお母さんの話の三つの体験をしました。妊婦疑似体験では、階段の昇降や横になった状態から起き上がるときの大変さを実感することができました。子育て中のお母さんの話では、子育ての大変さや責任、親の愛情などを感じることができました。また、子育てを支援している地域の活動についての説明がありました。乳幼児とのふれあい体験では、おそろおそろ赤ちゃんを抱き上げたり、一緒に遊んだりして、生徒の顔が優しい顔になっていました。

実際に乳幼児とふれあうことが少ない生徒たちにとって、この体験は大変貴重なものであったと思います。



携帯安全教室

3月12日（月）の6校時に本校体育館で、1年生・2年生を対象に携帯安全教室を実施しました。今年度は、LINE株式会社にご協力をいただきまして「インターネットとの上手な付き合い方」というテーマで講演をしてもらいました。

この講演では、インターネット上で発生するコミュニケーショントラブルやその他トラブルを想定して、事例を用いながら円滑なコミュニケーションに必要な要素やインターネットの特徴、トラブルの際の影響範囲や注意点について学びました。

ここでは、言われてイヤな言葉・されてイヤな事を考えさせ、生徒同士が意見交換することで人によって物事のとらえ方がそれぞれ違うことを実感させました。それにより生徒は、コミュニケーションにおいて自分と他者では考え方や感じ方が違うことを意識して、発言・行動することが大切であることを確認しました。その上で、文字だけで「おもしろいね」と伝えても、相手によってとらえ方が違うことや、LINEのスタンプを使用したとしても、相手によってとらえ方が違うことに生徒は気づきました。

講演形式ながらも参加意識を高めるようなワークも取り入れた講演となり、生徒は意欲的に参加していました。生徒にとっては、自ら考え想像力を働かせる機会となり、上手なインターネットの使い方について考えを深めることができたのではないかと思います。

講演形式ながらも参加意識を高めるようなワークも取り入れた講演となり、生徒は意欲的に参加していました。生徒にとっては、自ら考え想像力を働かせる機会となり、上手なインターネットの使い方について考えを深めることができたのではないかと思います。

1年間のご愛読ありがとうございました。今年度も、保護者、地域の皆様には、大変お世話になりました。この学校だよりを通して、学校の様子を伝えてきたつもりですが、至らない部分も多々あったと思います。今年度は学校のホームページにも学校だよりの発行と同時にアップしています。ホームページ上の学校だよりは、カラー版になりますので、そちらもご覧いただくと幸いです。平成30年度も、中学校と保護者、地域を結ぶメディアとして発行していきたいと思っております。教職員一同、保護者の皆様、地域の皆様の中学校の教育活動に対するご理解とご協力に深く感謝しております。来年度もよろしくお願いたします。

